

地縁の助け合い活動を活性化するには？

提 言

地縁の自然な助け合いから、有償ボランティアのような「しくみ」としての助け合い活動が生まれるところまで、住民の助け合いの気持ちを高めていこう。

登壇者

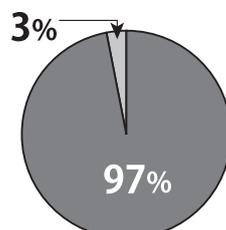
【進行役】	岡野 貴代	(公財) さわやか福祉財団
	酒井 保氏	ご近所福祉クリエイション主宰 ご近所福祉クリエイター
	神崎 義明氏	王塚おたすけセンター顧問
	目崎 智恵子	(公財) さわやか福祉財団、高崎市第1層SC
	中崎 朱美氏	入間市第1層SC
	山下 恵久子氏	入間市豊岡第二地区元気にする会会長
	植垣 章子氏	波佐見町第1層SC
	野下 和幸氏	井石ささえ愛たい代表
	壺崎 健氏	鹿屋市高齢福祉課
	穂園 裕治氏	鹿屋市第2層SC

アンケートの結果 参加者概数：368名（オンライン：364名、会場：4名） 回答者数：73名

回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



議事要旨 岡野 貴代

安心して住み慣れた地域で暮らしていくためには、身近な地縁での助け合いは欠かせないものであり、多くのみなさんが関心を持っているテーマであると思います。

前回の大阪サミットでは、地縁の助け合いそのものの「活性化」をテーマとし、日頃のつながりこそが地縁活動を活性化させるとの結論に至りました。

そして、今年は「広がり」をテーマとしました。広がりとは、助け合い活動を増やすというだけでなく、「自然な助け合い」を「しくみ」にまで発展させることも含みます。今回は、自然な助け合いを有償ボランティアという「しくみ」にまで発展させ、広げてきたSC・活動者の皆さま、また、全国の地域の助け合いに知見のある酒井氏にご登壇いただきました。

鹿児島県鹿屋市には大阪サミットでも登壇いただきましたが、その後さらに地縁の有償ボランティアを5か所立ち上げた歩みについてお話いただきました。SCからは、地域に通い住民と関係構築を図り、行政担当者からは、毎週定例会を実施し、きめ細かくSCと連携している様子も含めて発表いただきました。

埼玉県入間市からは、ネットワークを活かした取り組みを発表いただきました。生活支援体制整備事業が始まる以前から「近隣助け合い活動推進会」で地縁のネットワークができていて、さらに第2層協議体は地区に縛られない柔軟さが強みであるとお話がありました。また、活動者の山下氏からは、思いを形にするうえで、社協職員の伴走支援が大きな力となったことを発表いただきました。

酒井氏からは、助け合いを広げる上では「意味付け」と「つながり」を意識することが大切であるとお話をいただきました。地縁の助け合いは「つながる」こと。つながるから気になり、気になるから助け合う。そして、普段の暮らしぶりを「意味付け」することで、すでにある助け合いに気づき、気づくことで助け合いが広がるという、独自の視点での助け合いを広げるポイントは印象的でした。

群馬県高崎市からは、町内会で取り組む有償ボランティアの活動の発表をいただきました。神崎氏からは、町内会の理解・協力を得るための戦略として、協議体での情報収集や、町内会の臨時総会の前にSCから助け合いの大切さを説明してもらうなど、まさに生活支援体制整備事業を活用した活動創出をご披露いただきました。

長崎県波佐見町からは、自治会単位での有償ボランティアの立ち上げまでの取り組みについて発表いただきました。フォーラムから勉強会につなげ、やる気のある住民を掘り起こし、現場研修や情報交換会を取り入れながら住民の思いを形にするまで支援し、野下氏からは、こうした取り組みに参加することで助け合いの必要性を実感できたとお話いただきました。

登壇者の発表に共通していたのは、住民へ働きかけ、「助け合いの気持ちを高めていく」ことであつたと思います。行政、SCは、住民に助け合いの必要性を説明し、やる気になった住民に寄り添い、つかず離れず支援をする動きが見られました。あらためて、住民の思いと伴走する大切さを実感した分科会となりました。

■ 寄せられた声から

- 酒井さんの「数値化されないモノにお宝がある」「地縁で無意識にやっていることの中に“気になる”が生まれている」「気になっている人の方を分析・数値化すべき」等々の別角度からの発想が衝撃的で参考にまりました。
- 王塚おたすけセンターの取り組みは、具体的でわかりやすく町内会を巻き込んだ活動に賛同しました。
- 山下さんが社協との関係性をパラマソンの走者と伴走者にたとえていたのがぐっときた。コロナ禍でもできることをする大切さを学びました。
- 鹿屋市SCの「担当地区でSCとして活動できることに誇りを感じている。他のSCとともに悩み、考え、汗をかきながら地道に地域を回っている」が心に残った。

